

（作業手順）2013 年 7 月 26 日に、国際医療福祉大学大学院医療経営管理分野 h-MBA コースにて行った地域将来病床数演習の内容

（演習の目的）国が示した割合で病床の機能区分が進んだ場合、勤務先の病院がある地域は、どの程度過不足があるかを概算することにより、各地域のベッドの過不足感、およびこれからその地域において進むと思われる方向性を確認すること。

（千葉県チーム）→〇〇、〇〇（学生の氏名）

（神奈川県チーム）→〇〇、〇〇、〇〇

（栃木県）→〇〇

（鳥取県）→〇〇

（作業手順）高機能病床 18 万床、一般病床 36 万床、亜急性 26 万床、療養病床 28 万床が現在の人口割りで、都道府県や各医療圏に割り振られたと仮定する。

1. 高機能病床、3 次医療圏レベルで割り当てられる病床数を計算する。

2. 一般病床、亜急性病床数、療養病床数は、県全体と、二次医療圏別に割当数を計算する。

3. 各都道府県・二次医療圏の高機能病床数のシミュレーション

①高機能病院が人口 40～50 万に 1 個と仮定し、3 次医療圏レベルでの概算個数分の高機能病院（候補）をチームで選び出す。大学病院と「全身麻酔数（最低 2000 件）と地域性」を考慮して、候補病院を選び出すこと。

②各都道府県に割り当てられる予定病床数と、上記候補病院の現在の病床数を比較する。

4. 各都道府県・二次医療圏の一般病床数のシミュレーション

①上記以外の DPC 病床を、一般病床と仮定し、更に病院リストを見て、DPC 病院以外でも。一般病院となるべき病院を選び、県全体と、各二次医療圏別の一般病床数を計算する。

②人口割りで各医療圏に割り振られた一般病床数と、上記計算で算出された病床数を比較し、何%過剰、不足を計算する。

5. 各都道府県・二次医療圏の亜急性病床数のシミュレーション

①上記以外の一般病床は、全て亜急性病床になると仮定し、更に上記の過剰病床も全て亜急性病床になると仮定し、現状の亜急性病床数を計算する。

②人口割りで各医療圏に割り振られた亜急性病床数と、上記計算で算出された亜急性病床数を比較し、何床、何%過剰、不足を計算する。

6 各都道府県・二次医療圏の療養病床数のシミュレーション

①現状の療養病床が、全て療養病床になると仮定し、人口割りで各医療圏に割り振られた療養病床数と、上記計算で算出された療養病床数を比較し、何床、何%過剰、不足を計算する。

（レポート提出）8 月 10 日までに、高橋までメールで提出